

2019年2月の行事予定表

1	金	朝の祈り会	16	土	
2	土		17	日	伝道礼拝式、各会の例会日
3	日	総員礼拝式(聖餐)、教会役員会、 講演会「みんなで生きる」講師 JOCS ワーカー山内章子先生午後3時半～	18	月	
4	月		19	火	
5	火		20	水	聖書の学びと祈り会
6	水	聖書の学びと祈り会	21	木	祈禱会
7	木	祈禱会(証し会)、7~8日厚生委員会	22	金	朝の祈り会
8	金	朝の祈り会	23	土	
9	土		24	日	礼拝式、各部会
10	日	礼拝式、奉仕の日	25	月	
11	月 (祝)	信教の自由を守る日、講演会[当教会] “今こそ沖縄の叫びに心を向けよう” 講師：上地武牧師(日基・箕面教会)	26	火	
12	火		27	水	聖書の学びと祈り会
13	水	聖書の学びと祈り会	28	木	祈禱会
14	木	祈禱会			
15	金	朝の祈り会			

2月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

一年に一度、元旦礼拝でお目にかかる方々の横顔を拝見しつつ、「新しい一年をどのようなお気持ちで迎えられましたか？」とお伺いしたくなりました。

- ◇ E 姉妹のお証しは、お父様の緊急入院とその後のリハビリまでの緊張と安堵のご報告です。病室にも、新年の朝日が優しく差し込んだことでしょう。
- ◇ 西日本豪雨被災地への支援は息長い関わりが大事と思わされます。
- ◇ God is good, all the time! (神様のなさることは、いつも素晴らしい!) と、私たちも証ししつつ、2019年を過ごしていきたいです。

教会月報

2019年2月

No.333

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

一人の主人に仕える

「だれも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」
マタイ福音書6：24

最近、長寿社会を表す言葉に、人生100年時代を迎えたといわれる。中世の武士、織田信長は家臣明智光秀による反逆によって死を悟った時「人生わずか50年」と言ったと伝えられる。その時代から人の命は倍加したと考えられる。科学の発達と人間の適応能力のいちじるしい増加による結果であろう。

ところで、今まで予期しなかった中年時代・老年時代をいかに生きるかが今後の問題であろう。しかし、キリスト者は楽観的であってもならないが、息苦しさを感ぜながら人生を送ることもない。なぜならば、必要最低限の備えをしていれば主は守り導いて下さると信じる。

さて、各々の人生であるが、いかに長短はあってもどれほどの内容を持った人生であるかが問われるのではないであろうか？

聖書は各自の人生にあって、自由に生きる事が出来ることを記しているが、その主体性は誰がいかに持ち合わせるかが問題であるという。すなわち、世に生まれて育まれ、社会人として生きる人は何を残すかというのである。マタイ福音書6章1-18節には三つの段落で論じている。善行、祈り、そして断食である。それらは人に見せたり、他人の評価を気にしたりすることなく行われるものであるが、いったい誰に対してこれらを行うか問われている。

そして、続いて19-24節までの御言葉である。冒頭のみ言葉は、神と富の主人に兼ね仕える事が出来ないと述べる。否、この二者に兼ね仕えてはならないという禁止命令でなく、本質的に全くできないという事実認識である。キリスト者は人生において、誰からか表彰されることを願って生きる者ではない。目に見えない神の評価のみを願って生きる者である。ゆえに、対価を求めないで誰に対しても愛の業を行う事が出来るのである。その源泉は主イエス・キリストの愛にあることは言うまでもない。

牧師 永松 清

2019 新年おめでとうございます!!



おだやかな元日。午前 11 時より恒例の元旦礼拝が行われました。「全ての民の救い主」(聖書 ローマ 15:13)と題して永松清牧師より年頭のメッセージをいただきました。希望の源である神様を共に見上げ聖霊に満たされ新しい一年を過ごしたい、と励まされました。

礼拝後は全員の自己紹介。当教会出身の大月康子先生(ナザレン教団奈良西和教会)も里帰りされ、新年の挨拶を交わす笑顔の輪が重なりました。

聖書の言葉

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように。

(新約聖書ローマの信徒への手紙 15 章 13 節)



1 月伝道礼拝証し

E.S.姉

父が今年の 11 月末に脳卒中で倒れました。一週間後、父の状況は悪くなっており、私は急遽、帰国することになりました。12 月末までに向こうで滞在し、パパママを応援してきた。三週間後、奇跡が起こりました!

パパは集中治療室から出て、同病院の脳卒中センターに移動されました。主の平安が父に満ちています。クリスマスのは病院で、私が親戚・従兄弟達を集めて、パパの部屋で小さな声で皆でクリスマスキャロリングを行いました。そのときパパの笑顔を見ました。

40 日目、パパは無事に退院できた。右半身麻痺で今ハビリ中です。左半身は健康です。食事もできるようになりました。本当に神様のわざは素晴らしいです!!これも教会の皆様の祈りの結果です。パパの回復は、永松先生、土居先生がおっしゃった通り、奇跡です。☺

快復の光が見えてきて、本当に良かったです。

マレーシアにいる間、メッセージで連絡や応援して下さいました永松先生、N 姉、M 姉に感謝いたします。パパのために、教会役員会、皆さんが祈って下さってありがとうございます。本当に感謝の気持ちばかりです。パパとママは教会の皆さんに宜しくと言っています。



God is good, all the time!

「真備町への支援物資」報告と依頼

S.O.姉

西日本豪雨災害から半年が過ぎました。昨年末、真備町に教会のバザー用品を届けました。家電製品や家具類は一人各一点のみ、その他衣類・日用品は制限なく配給しているとのことでした。真備町では、リホームや建直しが少しずつ始まりつつあります。生活再建と共に長い支援が必要です。現在は、毛布類、男性の普段着などを必要としています。ご協力宜しくお願いします。担当は尾崎です。

※岡山キリスト災害支援室(略称:岡キ災)のニュースレター第1号が週報ボックス&受付で配布されています。ご参照ください。

聖書の言葉

みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まることなく自分を守ること。これこそ父なる神の前に清く汚れのない宗教です。

(聖書協会共同訳/新約聖書ヤコブの手紙 1 章 27 節)

教会学校 成人科 どなたでも!

日曜日の礼拝(10:30)前、9:50~10:20 の30分間は、集会室での「教会学校成人科」に、どなたも出席できます。教材は、ナザレン教団として力を入れている「希望」誌を使っています。

はじめに、カリキュラムに沿った聖書のところを皆で順番に読みます。地理的な情報は聖書の裏にある地図を見たり、歴史的におさえておくとかかりやすい場面は年表や他の聖書箇所を開いたりして、聖書を立体的に味わえるようにしています。

次に、「希望」誌の成人科ページを予習してきた人もそうでない人も、感じたことや教えられたこと、分からないことなどを話し合います。「へえ~知らなかった」「ほかの人の感想を聞けるのが楽しみ」「短い時間だけど楽しい」「久しぶりに聖書を読んだ」など、おとなの教会学校らしい声が毎週交わされています。

あつというまに時間が過ぎ、最後に牧師先生がシメてくださって礼拝に備えます。

子ども時代の自分はあんなに勉強が苦手で逃げていたのに、今は成人科の予習や学びが楽しみなことが嬉しいです。成人科のメンバーはまさに「学友」です。6~10 名ほどの出席ですが、さらにどなたでもウエルカムです。(希望誌や聖書を持っていなくても大丈夫!)教材「希望」誌は、年間カリキュラムに従って編集され、3か月分で一冊1000円という廉価。希望誌後半の中高科・小学科ページもついでに読むと、おとなでもクイズに窮することがあったり、シリーズ読み物の連載など、1か月分333円とは思えない充実した内容。読まない、使わない、はモッタイナイ!

(教会ホームページより)

